

町長室から

浦幌町観光協会の主催ですが、1月23日に冬の花火6000発が新型コロナウイルス感染症で鬱積した気分を晴らすように澄んだ星空に打ち上がり、成功裏に終了するこゝとが出来て、町民のみなさんから喜びの声もいただきました。

関係者の皆さんありがとうございました。

新型コロナウイルスの感染者は世界で1億人を超え、北海道で確認されてから早くも1年以上がたちました。

今日時点では北海道と十勝管内の感染者数は減少傾向にあります。が、全国に先駆けて感染爆発の波が押し寄せてくるという状況がこれまででありましただけに、まだまだ予断は許されません。

新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種に関する一部関連予算を臨時議会で可決していただきました。

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種は「予防接種法」が改正され、任意接種ではなく予防接種法という法律に基づく定期接種となりました。

その結果、接種を受けるか受けないかは本人の意思によるものですが、接種費用は自己負担がなくなり、接種により健康被害が生じた場合は法律により国から救済措置を受けることが出来るようになります。

医療従事者から今月下旬に始まる見通しですが、65歳以上の接種は4月以降になり、さらに16歳以上から64歳までの接種はそれ以降となります。

現段階では、認可されそうなワクチンが3種類あり、どのワクチンがいつ、どれだけの数量が本町に配分されるかわからない点など不透明感がありますが、医療従事者以外への接種の実施主体は地方自治体に課せられており、本町としては町民の皆様には不安を与えないように速やかに混乱のないように実施することが最大の責務です。

国からの具体的な接種計画が示され次第、接種場所や日程などを決定し、町民の皆さんにお知らせ致します。

新型コロナウイルス感染症の蔓延を防止するにはワクチン接種は

有効な手段ですが、日本人の接種希望率は現時点では世界でもかなり低いと言われています。

接種はあくまでも同意する方だけですから、国からはワクチンの安全性と有効性をしっかりと説明してもらいたいものです。

しかし、国全体で一時期にワクチンを接種するのはかかってない大企業であり、浦幌町としても16歳以上の町民4000人以上を対象に期間を限定して接種する事業は容易ではありません。

1か月以内に1人2回の接種が必要と言われていますから、高齢者から一般の人まで接種が終了するには4か月から5か月かかりそうです。

マンパワー不足などの課題は山積しています。が、関係部署で綿密な接種計画を練って役場全体でしっかりと対応して取り組んでまいります。

浦幌町の「十勝つらほろ創生キャンプ事業」が町内の人、町外の人、企業を巻き込んでいろいろ取組を進めています。

そこには多種多様な、そして有為

な人材が、たくさん浦幌町というフィールドを求めて参集しています。

何故、これだけ有為な人材が自分の活動の場を浦幌町に求めたのかなど興味深いと思いませんか。

彼らが思い描く地方創生への道は新鮮な息吹を感じられます。

コロナ下でも感染症対策をしつかり行いながら、可能な限りの活動を行っていますので、町民の皆さんが少しでも興味がある方は活動に参加していただければ、きっとワクワクするような気持ちを持共有することが出来て、新しく楽しい気持ちも生まれるはずですよ。

役場の「まちづくり政策課」にご一報をお待ちしています。

冬は雪道の悪路や信号のない交差点では事故の危険性が増すことも心配されますので、冬道の交通安全の励行を心がけて頂くようお願い致します。

浦幌町長 水澤一廣

連載
119

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部

教授 平岡祥孝

コロナ禍でインバウンド需要が消失し、不要不急の移動の自粛が叫ばれて国内旅行も低迷が続いています。あくまでも私見ながら、この冬に限っては、北海道にとって食や自然景観とともに重要な観光資源である雪も、単なる日常生活や経済活動の大きな障害となつていとも、言えるのではないのでしょうか。語弊があるかもしれませんが、冬場の観光資源としての雪が光ならば、雪害は陰ですね。ともあれ後1か月ほどの辛抱でしょうか。

北海道労働局の発表によれば、2020年12月の道内の有効求人倍率(求職者1人当たりの求人数)が前年同月比0.29ポイント減の0.99倍となり、12か月連続で前年同月を下回ったそうです。報道内容に関して、私が最も危惧したことは高校生の就職問題です。就職を希望したものの、まずは採用されなければなりません。しかしながら、道内高校を今春卒業する就職希望者のうち、就職内定率は86.4%に止まり、未内定者数は969人で同26.7%増加しています(『北海道新聞』2021年1

月30日付記事)。同様に、日本経済新聞社が昨年10月26日〜11月6日に実施した採用状況調査でも、主要企業の高卒採用内定者数(21年春入社)は20年春入社と比較して、31.9%減少していました。また、その減少幅は大卒(11.3%減)を上回っていました(『日本経済新聞』2020年11月27日付記事)。

業種や企業規模へのこだわりを捨てるならば、内定を得られるという意見もあるでしょう。それも正論だと思います。ですが、70歳定年が現実味を帯びてくる時代を迎えて、高校卒業後50年以上職業社会に身を置くことを考えたならば、内定率を向上させることも、離職率を低下させることが極めて重要ではないでしょうか。北海道の新規高卒就職者の離職状況を見るならば、2017(平成29)年3月卒業では、男子40.5%、女子49.0%でした(北海道労働局HP(令和2年11月18日掲載)。つまり、男子では5人に2人、女子では2人に1人の割合で、3年以内に離職しているという実態です。残念な事実です。

あくまでも私の独断と偏見ですが、その要因は2つあると考えます。1つ目は、高校生の就職活動において志望届の提出先企業を1社に絞り込む「1人1社」ルールです。複数企業を比較企業研究できれば、イメージギャップやリアリティシヨツ

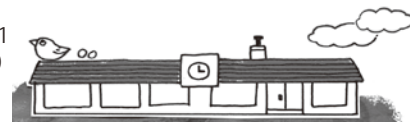
クが緩和されて、ミスマッチが減少するのではないのでしょうか。当然のことながら、学業に影響を与えてはなりません。学校現場には指導・支援に創意工夫が求められます。

2つ目は、とかくキャリア教育の充実が叫ばれているものの、道内高校で実践されているキャリア教育の問題です。輸入教育のキャリアガイダンス理論に基づいて、自己理解系、職業理解系、キャリアプランニング系の教育内容は、果たして教育効果は高いのか。私は疑問に思っています。高校は地元就職志向が強い高校生に対して、日本人が主体の組織で働く上で求められる資質や能力とともに知恵を授けていく必要があるのではないのでしょうか。毎日の授業の中で、経済産業省が提唱する社会人基礎力やコンピテンシー(再現可能な行動特性)の大切さを伝えつつ、生徒に気づきを与えていくことでしよう。仕事をする上での「良い習慣」を身につけることを意識させることが、職業的意味を持つ教育では。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

Tokomuro Lab 通信 vol. 12

浦幌町字常室 51-1
Tel: 015-578-7580

こんにちは!地域おこし協力隊・常室ラボ担当の青木です!

浦幌町に住みはじめるまでは、一年の半分が冬だなんて思ってもいませんでした。

でも、雪の結晶が肉眼で確認できて「わーすこい」とまじまじ見てしまったり、細氷が風で舞ってキラキラしている様子を奪われたりと、冬には冬の楽しみ方があるということも同時に知ることができました。

昨年9月に常室ラボの廊下にオープンした図書コーナーの「ミクロの世界を覗く」というテーマの中に『SNOW CRYSTALS』という洋書があります。雪の結晶の写真がひたすら載っているという内容ですが一つとして同じものはないんだと改めて感じる事ができる一冊となっています。

わたしの説明ではかなりざっくりとした紹介ですが、図書コーナーの選書をしてくださった長谷川彩さんが丁寧に紹介してくださっている「トコムロラボの図書だより」が1月からスタートしました!

そちらを見ていただけたら本をより楽しめること間違いなし!!

ぜひチェックしてみてください◎ ⇒https://note.com/a_tsukimitaini/m/mf3198e05f92c

【開校時間Opening Hours】

定休日 月曜・火曜・水曜

ラボ 10:00-17:00

キッズスペース(無料)やフリースペース、コワーキングスペースをご利用いただけます。校内の見学やイベント開催のご相談 etc... 承ります!ぜひ遊びに来てください(AO/A)

カフェ 土曜、日曜

11:30-15:00・ランチタイム
(14:30 ラストオーダー)

校庭を眺めながら、うらほろ食材の美味しいお料理でフレッシュ。珈琲一杯からお気軽にどうぞ!